■小山委員

○農林水産部共通

Q1-1　高付加価値の作物に「有機栽培」は取り入れないのでしょうか。国も積極的に推奨し始めており、ほ場整備と一体で進めることで、環境への負荷も低減される。効率化と負荷の低減をうまく回すことがこれから重要になる。県としては推進していく人、やりたい人へ支援はあるのか。

Q1-2　特に有機 JAS マーク認証の取得が県産品で進んでいないように思われます。

Q2　ほ場整備の高収益作物・高付加価値の生産額は少し過大に感じます。

Q3　６次産業化・枝豆・スイーツにシフトしてきており、特に枝豆はほかの県も力を入れてきています。大豆の需要は増していますが、大豆は相変わらず助成金頼みなのでしょうか。枝豆のスイーツも良いですがスープはいかがでしょう。味噌汁のように栄養が取れると思います。

Q4　今後、スマート農業が実現されていくものと思われますが、今現在の問題点や課題は何でしょうか。機器に慣れていないこと、適した機器の開発、値段など。リモートワークで秋田に移住してくる人を活用できないでしょうか。

Q5　ほ場整備に関して、法人化により、個人での営農は難しくなるのでしょうか。

Q6　周年農業について、冬も休めなくなるのでしょうか。(「人も農地も休みなく」で良いのでしょうか)

Q7　６次産業化と省力化が弱いということが分かりました。

○農-新-1

Q1　集積計画によりきれいにまとまり、農業効率が良くなると思われます。

Q2　地域農業基盤の強化について、「後継者見込み３０代２名」ということですが、各地域で増えると良いですね。最近は孫世代などが継いでくれるという話を聞きました。

Q3　０１－６ページについて、合意が得られていない受益者とはどのような人でしょうか。

○農-新-2

Q1　「人と人を結び生産力向上を目指す」というのは大事なことです。農福連携による労働力の確保は良い取り組みで、広がってくれると良いです。

Q2　０２－０６ページについて、売り先は、県も協力して探すのでしょうか。

○農-新-4

Q1　０４－３ページについて、整備対象の農地が離れていて大変そうに思います。

○農-新-7

Q1　０７－３ページについて、淀川の水害対策はどうなっているのでしょうか。

Q2　「とらや」の白小豆の生産面積拡大と品質保持に努力して、信頼を失わないようにしていただきたい。契約栽培の利点を大いに利用すべきです。

○農-新-8

Q1　０８－３ページについて、加工米から枝豆にシフトするようですが、上手くいくでしょうか。

○農-新-9

Q　０９－０３ページに、労働力の確保として、「シルバー人材センター、ハローワークの活用」とありますが、人口減の中でどの仕事でも課題となっています。特に秋田の農業は１０年後大変になると予想されていますが、どのようにしていくのでしょうか。県全体・国の政策にも係わることです。

○建-新-3

Q　横手市は広い土地がある割には道路が分かりにくく、もったいないと思います。横手市などと、都市計画と一体の整備が必要ではないでしょうか。

■一色委員

○農林水産部共通

Q1　農林水産部の項目が今回は新規 10 件ありますが、毎年何件くらいの申し込みがあり、そのうち『優先度がかなり高い』は 何件でしょうか。『優先度が高い』『優先度が低い』の件数も差支えが無ければ教えて下さい。

Q2　新型コロナウイルス感染拡大前の令和元年度以前と、コロナ禍の令和２年度、令和３年度の申し込みは、数値的に特徴的な変化はありますか。

■荻野委員

○農林水産部共通

Q1　高収益作物について、県南ではえだまめやフルーツ、県北ではねぎが中心となっています。このような地域的な棲み分けは県の戦略でしょうか。それとも気候の問題でしょうか。

Q2　スイカやメロンやブドウなどフルーツは特に収益が高いように見えますが、県北での栽培は難しいのでしょうか。いずれにしても各地域で最大の利益が見込める作物を推し進めることが県民の利益に繋がると思います。

Q3　県南地域に比べ県北地域では農産物の直売所が限られているように思いますが、こういう場所が増え農家の収入増と地域のにぎわいに繋がることを期待します。ほ場整備事業の中では難しいかも知れませんが。

○建設部共通

Q　用地補償費に大きな格差が認められます。建新 01、建新 03 では用地補償費の割合が大きく、建新 02、建新 04 では小さいです。これは公平に算出した上で、地価の問題と理解して良いでしょうか。その上で、用地補償費は地権者とのネゴシエーションの結果に大きく影響されそうで、金額を見積もるのが難しいように思えます。

　今後、用地補償費が大きく膨らむ可能性はないのでしょうか。あるとすれば、そのリスクをどのように予算の中に組み込んでれているのでしょうか。総事業費に占める用地補償費の割合(用地補償費と工事費の比)が大きい新規事業は特にその影響が大きくなると考えられます。

○建-新-4

Q　住宅地を迂回する道路建設であり、利便性の向上と住民の安全確保、両面から重要な事業です。ただし、長期的にこの路線全体としての利便性を考えた場合、この区間の前後には川面小や稲川中などがあり、幅員狭小等、同様の問題があると思われるので、前後区間も合わせて整備していく必要があると考えられます。

■込山委員

○農林水産部共通

Q1　複数の事業で、「高齢化と後継者の確保への苦慮」という事業がありますが、新規就農や、広域的な農業法人の設立や連携など（可能。）、今後の見通しについて、補足説明があれば御願いします。（新-01、02、04、08、09 について）

Q2　「6 次産業化」及び「省力化技術」に関する取り組みに差があり、 特に高齢化と後継者の確保に課題がある事業で、評価が低いと思われます。積極的に事業に取り組んでいる法人からの支援などは考えられるのでしょうか。（Q1と同じ箇所について）

Q3　複数の事業箇所で、6 次産業化として似たようなもの（枝豆スイーツなど）に取り組んでいるのですが、同様なものは連携して、質の高い商品を共同で考えるなど、検討していないのでしょうか。（新-04、05 について）

○建設部共通

Q　道路事業全般について（以前も意見したことですが）複数年にわたる事業の場合（道路のほとんどがそうだと思いますが）、特に危険な箇所などを優先整備するような対応は検討しているのでしょうか。

○建-新-2

Q　小学生の通学路として、拡幅区間の歩道整備は良いと思いますが、バイパス区間には歩道がないため、仮に図の⑫のあたりから峰浜小学校まで徒歩（2km。）だとすると、新設される橋梁を含めた歩道がどういう設計になるのか、補足説明を御願いします。図面ではバイパス区間の断面は歩道が無いようです。関連して、旧橋梁がどうなるのか、旧国道を通学するとしたら旧道の歩道はどうなるのかについても説明を御願いします。（バス通学でしょうか。）

○建-新-3

Q　早期に整備が求められる事業だと思います。一方、事故発生箇所をみると、交差点に多いように思われ、設計段階で交差する道路からの見通しなど、拡幅だけではない検討課題があるように思われます。補足説明があれば御願いします。

■関口委員

○農林水産部共通

Q1　枝豆など豆類栽培のためのほ場整備は、暗渠を設置して排水機能を高めると言う事になるかと思いますが、その暗渠の材質を教えてください。

Q2　（塩ビ管使用の場合）塩ビ管には安定剤として鉛化合物が使用されていると思いますが、一般用に比較して水道用では鉛の含有量が低いです。塩ビ管から鉛が溶出し、長時間地下水中に存在するとされ問題となってきた背景もあるので、一般用か水道用のどちらを使用しているか教えてください。

■石毛委員

○農-新-1

01-3「①地域農協基盤の強化」について：

Q1　既存 2 法人構成員の平均年齢 71 歳とありますが、構成員は何名でしょうか。

Q2　新規法人になると、構成員は 2 名になるということでしょうか。それとも、既存 2 法人の構成員に新たに後継者見込み 30 代 2 名が加わるということでしょうか。

■永吉委員

○建-新-4

Q　04-2 ページの資料を拝見しますと、新たな道路もそれなりに人家のある区間を通るようですし、工事区間北側の線形も少し気になります。既存の道路との接続や工事距離等を考えますと、計画路線のとおりにならざるを得ないのだと思いますが、安全面に関してもとくに問題ないと考えてよろしいでしょうか。